

北里大学病院・北里大学東病院(旧)を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (受付番号/承認番号)	線維柱帯切除術が平均惹起乱視や重心値 (centroid) に及ぼす影響についての単施設後方視的研究 (B21-070)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部眼科学 教授 庄司信行
他の研究機関および 各施設の研究責任者	他の研究機関はありません。
本研究の概要・背景・目的	緑内障手術は眼圧下降の効果だけではなく、術後良好な視機能 (QOV : quality of vision) を維持することが重要です。現在緑内障手術として代表的に挙げられるものの一つに線維柱帯切除術 (trabeculectomy) があります。線維柱帯切除術とは強膜に弁を作成 (強膜弁) してその下部の虹彩と線維柱帯の輪部組織の切除を行い強膜弁を縫合して濾過量を調整する手術方法です。線維柱帯切除術の術後成績として眼圧下降の報告は、良好な眼圧下降が得られていますが、線維柱帯切除術は手術時の強膜弁の作成・縫合の強さにより惹起乱視 (手術操作によって発生する乱視) が増強し、術後乱視が増加に伴い QOV が低下する可能性があります。今回我々は、線維柱帯切除術における乱視の変化を平均惹起乱視量と重心値 (centroid) で比較します。
調査データ 該当期間	2018年1月1日から2021年3月31日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さま	上記期間内に緑内障と診断され当院で線維柱帯切除術を施行した方
研究の方法 (使用する試料等)	利用する情報 2018年1月1日から2021年3月31日までの電子カルテに記載のある診療記録、眼科検査値 (裸眼視力・矯正視力・自覚屈折度数・角膜乱視度数・角膜屈折度数) を利用します。
試料/情報の 他の研究機関への 提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。本研究の遂行のための費用は眼科研究費を使用します。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け適切に管理されます。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。

本研究の情報は二次利用の可能性があります。その際は改めて、研究倫理審査・承認を受けてから研究を行います。また二次利用のみを拒否することも可能ですのでお申出ください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属・職位：眼科・視能訓練士

担当者：安藤和歌子（アンドウワカコ）

電話：042-778-8111

備考